

科目名	邦楽演奏研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

< 箏 >

近代箏曲の祖、八橋検校より現代迄 400 年。その間に伝承された古典に立脚し、真の基礎力を築き、将来求められる高度な音楽性技術力を磨き、卒業後、教授者として、また、演奏者として求められる人材を育成する事を授業目標とする。

< 長唄三味線 >

基礎的な三味線演奏技法の習得。

楽器の特性を熟知し、美しい音色で演奏することを目標とする。

演奏曲の内容を理解し、三味線音楽に対する知識も身につけ、教育現場に対応出来る能力を身につける。

< 尺八 >

我国での尺八音楽(普化尺八)は 400 年を超えて精神性を基に発達して来ている。現代ではその独特な音色や音楽性が注目され、数多くの創作活動にも取り入れられている。授業では、その独自性を失うことなく次年次に要求される更に高度な音楽性等に答えられる力を養うことを目標とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

< 箏 >

箏も三絃も優れた演奏に必要なものは、リラックス（脱力）に尽きる。それが体得出来た上での習練を積み重ねる事。開講期の節目には習得曲は必ず暗譜で演奏する事を課題とする。

< 長唄三味線 >

レッスン曲は個人の能力に応じて行う。

楽曲に関する文献等を読み、内容を理解する。

出席率が 3 分の 2 以下の場合には試験の受験資格を失います。

< 尺八 >

習得曲は個人の能力に応じ、撰曲。

楽曲として発表するまでに、精神性の高さも追求していただきます。

＝授業内容＝

< 箏 >

(1 年次)

1 期 最も基本的で且つ、最も音楽性の高い八橋検校の「みだれ」と宮城道雄作曲の「春の夜」をまず入学直後に暗譜の状態です習得させる。その後比較的小規模の手事物と宮城作品の習得により、技術的進歩を図るものとする。

2 期 中規模の手事物箏曲を主として習得させる。また、技術的に高度な宮城作品を適宜、数曲交ぜる事によって古典と新日本音楽を両方学ばせることを図る。

(2 年次)

3 期 手事物箏曲を主に合奏の型式で習得させる。文化文政期に盛んに作曲された球玉の作品群を主として習得

させる。

4期 3期とほぼ同じ内容であるが、曲は徐々に高度な曲へと進行する。

(3年次)

5期 この期から宮城作品を中心としてテクニックの向上を目指す。

箏も三絃も宮城作品は古典の基礎の上に立って初めて弾きこなす事が可能な楽曲ばかりである。それ故、この期からの習得が将来の糧となる事を目指す。

6期 5期に引き続き、新日本音楽を主とするが、学内演奏があるため各自の選曲をも主として行く。

(4年次)

7期 7、8期は卒業後を見据えての授業となる。まず古典曲は最高の音楽的価値を持つ、いわゆる名曲の数々を習得させる。また、宮城曲においても最高級の曲の習得に励む。

8期 定期演奏会の為の曲の習得と卒業演奏会の為の曲に終始することになる。

<長唄三味線>

(1年次)

1期 最も基礎となる「松の緑」の習得、正しい音程感覚を身につけ楽器の特性を理解する。曲の内容を理解し、表現出来るようにする。

2期 「松の緑」暗譜。長唄三味線の中で現在一般的に演奏されている最も古い曲を習得。

(2年次)

3期 1年次の復習。より高度な曲の習得。

4期 西洋音楽との違いを理解習得する。習得曲を増やしてゆき、長唄三味線を内容、技術ともに理解する。

(3年次)

5期 難易度の高い曲を学ぶ。曲の核になるソロの部分によりよい音質で弾けるよう学ぶ。

6期 中学校教科書に掲載されている「勸進帳」の習得する。教育現場で対応出来るよう鑑賞のポイントの習得。

(4年次)

7期 演奏者のリーダー(タテ三味線)としての演奏法の習得する。

曲の要となる「掛け声」を習得、曲の全体を把握し、西洋音楽という指揮者の立場としてのタテ三味線の技法を習得。

8期 難曲にも挑戦し、より高度な技術を身につける。定期演奏会の為の曲を習得する。舞台上での心がまえを身につける。

<尺八>

(1年次)

1期 尺八の構造及び楽音の形式を行い、ソルフージュによる正しい音程感覚を身に付ける。その課程をこなし、さらに古典楽曲「調子」の演奏習得にいたる。

2期 古典楽曲「調子」を暗譜。現代の音程及び、音楽観を古典曲・現代曲と相違点を追求。

(2年次)

3期 尺八としてのさらに高度な奏法を学ぶ。楽曲は古伝三曲中「虚霊」を習得する。

4期 尺八の構造をさらに知り、自ずから楽器の製作を体験。楽曲は古行三曲中「霧海篋」を習得する。

(3年次)

5期 自作の尺八と完成型との比較により、楽曲演奏の難易度を体感し、今後の演奏活動の為の指針とする。楽曲は古伝三曲中「虚空」を習得する。

6期 他の楽器とのアンサンブルを試みる。楽曲は地唄曲「黒髪」を習得する。

(4年次)

7期 独奏楽器尺八としての演奏姿勢、心がまえを勉強する。楽曲は「阿字観」を習得する。

8期 さらに高度な演奏技術を身につける。古典本曲(前出の)「阿字観」を暗譜演奏する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

<箏>

学期末試験は、地唄箏曲の最も一般的な形式である三曲合奏の形で試験を行なう。箏、三絃を各々、一人で伴奏者を伴い、暗譜で演奏させる。

評価は勿論音楽的である事、創造的である事、正しい発声をしているかどうかの判断を含め、楽譜からいかに

離れて手も唄も自由で自然体迄持っていけるかどうか判断の基準となる。

<長唄三味線>

学期末試験は伴奏者に唄を唄ってもらいおこなう。

評価は音楽的である事、内容を理解し、円滑に演奏が出来ていることが高評価の基準となります。

<尺八>

学習姿勢及び期末時に演奏試験による評価を行います。

なお、個人の能力いわゆる習得度の深さにもより、評価基準も対応致します。

=その他=

<尺八>

特に個人能力が優れている場合はより高度な専門家教育を学年中にレッスン致します。